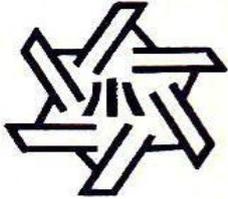


二小通信

令和 7年 1月 8日
東久留米市立第二小学校
校長 井上 淳
1月号

TEL042-471-0134 Fax042-472-7981

*学校ホームページ <http://www.higashikurume-school01.jp/~dai2-e/>



『教育目標』

- ◇ 考える子
- ◇ 仲よくする子
- ◇ じょうぶな子

あけましておめでとうございます

校長 井上 淳

新たな年を迎え、子供たちが元気に登校してきました。保護者の皆様や地域の皆様におかれましては、本年も第二小学校へのご支援をよろしくお願いいたします。

さて、「子供を褒めて伸ばす」という手法や考え方が本やSNSを通じて世の中に広まって久しいです。しかし、子供のやる気を引き出すための褒め方というのは、なかなか難しいです。ここで、褒め方に関して、一緒に考えてみたいと思います。

【「結果」を褒める or 「過程」を褒める】

できたこと（結果）を褒めることや、結果に関わらず、挑戦したことや頑張った内容（過程）を褒めることがあります。よい結果を褒めると、子供は自信を深め、その効果は高いです。しかし、結果ばかりに固執してしまうと、よい結果を出せなかった際に、自信を失ったり、失敗を恐れたりします。一方、努力した様子（過程）を褒めると、「もっと頑張ろう」という気持ちが生まれます。過程にもしっかりと目を向けることで、次につながりやすくなります。

【「いつも」褒める or 「ときどき」褒める】

子供が未就学の頃には、小さなことでも褒め、「自分は何でもできる」「お家の人から愛されている」などといった気持ちにさせて、子供の自尊心を高めていくことはとても重要です。しかし、ある程度の年齢になっているのに、むやみやたらに褒めると、ゆがんだ万能感につながる場合があります。子供の成長に合わせて、褒めるタイミングを見計らう手法に切り替えていくことが大切になってきます。

とは言っても、やはり子供のやる気を引き出す褒め方は、難しいものですね。ただし、我々大人だって褒められると嬉しいし、それだけで次へのやる気につながることも多いです。もし、「この頃、自分の子をあまり褒めていないなあ」と思われたならば、まずは褒めることから始めてみてはいかがでしょうか。